

目 次

1. はじめに	1
2. フランス農村における町村制度の実際	3
(1) フランスの町村の大きさ	3
(2) フランスの町村制度	5
1) 零細性から帰結する特徴	5
2) 農村コミューンの議会のしくみ	9
3) 農村社会の変化とコミューン	10
4) 農村コミューンと行政	13
5) 農村コミューンの財政	14
6) 小括	21
(3) 90年代の地方制度改革 —コミューン協力団体の組織化の推進—	21
1) 1960～70年代前半の合併推進と強権的な合併政策の失敗	21
2) 地方分権法とコミューンの権限	23
3) コミューン協力団体制度の整備	25
4) コミューンの広域連合：コミューン共同体	28
5) コミューン共同体の実像	31
(4) 農村振興政策とコミューン	35
1) 1995年国土整備・振興基本法と「ベイ」政策の実験	35
2) 1999年持続的国土整備・振興基本法と「契約」による財源の裏づけ	36
3) 小括	37
3. コミューン共同体とその活動 —カンタル県マシアック郡—	42
(1) 統計からみたマシアック郡	42
(2) マシアック・コミューン共同体の組織と活動	46
1) カンタル県におけるコミューン共同体の形成	46
2) マシアック・コミューン共同体の組織	46
3) マシアック共同体の活動	50
(3) テラスの復元と観光利用 —伝統農業の復活による地域のイメージづくり—	50
(4) アラニョン川河川契約 —集水域を単位とした広域の流域保全整備—	55
(5) 小括	59
4. 農村振興と領域の多様性と重層性 —オートマルヌ県オーブリブ郡—	63
(1) 統計からみたオーブリブ郡	63
(2) キャトル・バレコミューン共同体の組織と活動	65
(3) オーブリブ郡の小村の組織と活動	72
1) バル-デ-ティル (Vals des Tilles) 村 —5カ村合併の小村—	72
2) ポワンソン-レ-グランセ (Poinson lès Grancey) 村 —同族色の強い村議会—	78

(4) 広域行政団体としてのラングル丘陵郡振興協会 -----	79
(5) オートマルヌ県南部における「ペイ」の設立 ー農村振興の広域化ー -----	89
(6) 州立自然公園の設立構想 ーもうひとつの広域振興圏ー -----	94
(7) 小括 -----	97
5. むすびにかえて -----	102
(1) フランスの農村振興の基底 -----	102
(2) 日本の農村振興への示唆 -----	103

図表一覧